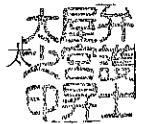


甲 4 0 の 1 反 訳 文

平成 28 年 10 月 31 日

控訴人代理人弁護士 屋 宮 昇 太



録音日：平成 26 年 6 月 19 日

録音時間 27 分 17 秒

録音者 控訴人

発言者 控訴人 松永勝彦氏 松永夫人

出口 すみませーん。

(インターホン音)

松永夫人 はい。

出口 すみません、私、出口と言いますが、先生にちょっと見てもらいたいものがありまして持ってきたんですが。

松永夫人 はい、お待ちください。

出口 朝、電話した出口と言います。

松永夫人 はい、こんにちは。

出口 どうも、先生、どうも、お忙しいところ。いやあ、もう、ねえ、ぜひとも先生に見てもらいたいものがありまして。すみません、どうも。

松永 …?…。

出口 どうも、出口と言います。ちょっと見当たらないなあ……。金沢工大の客員教授もやっておりますが、これは大学発ベンチャーの支援サイトで、先生が今回「Rika Tan」のあれを書かれたサイエンスポータルは。

松永 はい、はい。

出口 あれは委員長が黒川先生で、それで私もその委員で、2年ぐらいかけて当時の JST の沖村さん、理事長のお勧めでですね、あのサイエンスポータルを実はその設計からコンテンツを含めて手がけてきたんです。それで。

松永 ほう。僕はあんまり、よく分からないんですけど。

出口 え?

松永 あそこのポスト、…?…行ったというから OK ですよというだけなの。

出口 あ、そうですか。あれ、誰からあったんですか、話が。

松永 うーんと、あそこの。

出口 編集長ですか。

松永 編集長ですね、?結局は。

出口 ?マツガワさん。いや、それで、先生も今日は体調があまり良くないというので、先生のこのサイエンスポータルに EM が前、これは汚染源になるっていうことで。

松永 はい、はい。

出口 私もちよっといろいろ調べてですね、これは青森県が実験で、調査やった報告書なんですよ。

松永 はい。

出口 その EM の効果を検証するためにね。これ、あまり表に出てるものじゃないんですが、いいですか？

松永 はい。

出口 「沖館川は生活排水によって夏場の悪臭が問題になっている」と。「この改善のために EM の活性液投入が計画されて、その水質浄化効果を検証するための一環として、汚泥の、ヘドロの厚さを観測した」と。これ、実験して毎月 2t の EM を流してやって、これは……。

松永 これ…?…。これは県がやったんですか。

出口 県がやったんです。これは表に出てませんがね。朝日新聞がこれについて改善効果はないって書いているんですが、あれは誤りでしてね、取材してなくてこれも見てないんですよ。これもあまり表に出ているものじゃないので、それで……。

松永 いや、こんなの僕、読む必要はないと思いますよ。

出口 ん? 嘘はない?

松永 読む必要はないというのは……。読む必要はないと思いますよ。

出口 ああ、そうですか。

松永 いや、そうでしょうか?

出口 いや、それでね、ちょっと聞いて、先生。

松永 ええ。

出口 調査したら全地点でヘドロが減少したって。

松永 いや、だから、状況が分かんないですよ。酸素が入れば減るんですよ、そんなもん。当然でしょう? そんなの。

出口 酸素が入れば。

松永 だから、これ、酸素が入ってるかどうか分かん、そんなもん。

出口 それ、酸素は入ってないですよ、これ。投入しただけですから。

松永 じゃあ、比較しないと。

出口 どこと？

松永 酸素を入れたやつと。

出口 ああ。

松永 その程度の話でこれが減るって、そんな馬鹿な話はないですよ。

出口 そうですか。だから、これはヘドロを、先生、EMを入れればヘドロがね。

松永 そんなものはどうにでもなりますよ、それは。実験しないと。

出口 ああ、そうですか。

松永 そうでしょう。

出口 これでも大きな実験にならないですか。

松永 実験って、対照をしないと。

出口 もう一つ別なところで。

松永 いや、酸素は、当然なことでしょう。酸素、あれは分解速度を早める。これは常識なんですもん。

出口 でも、酸素を入れてはいないんです、これは。

松永 いないんでしょう？

出口 ええ。

松永 そうしたら、入れた時と比較しないと。

出口 いや、EMを毎月2t入れてヘドロが増えたか減ったかという。

松永 けど、酸素を入れとつたらもっと減るか、分からないでしょう？

出口 うん、だから、酸素を入れなくてもEMを入れた時の結果どうなるかという報告なんですよ。

松永 いや、けど、それは意味がないな。

出口 そうですか（笑）。

松永 いや、こんな高いもの使って、非常に高いですよ。商売するもんだから。商売をその新聞が、例えばあれと同じじゃないですか、乳酸菌というか。あそこ、ヤクルト。あれ、入れたのと同じじことしているんだもの。ヤクルト、宣伝しますか？新聞が。だから、公共の新聞がなんでこの宣伝をするのか、それがよく分からない。

出口 まあまあ。先生、それと僕も北海道庁をちょっと調べて先生が道庁の部長から。

松永 ええ、ええ。いや、こんなのやらないと思いますよ。

出口 これは実際やったんですか。

松永 やりました。

出口 県から委託を受けたんですか、いや、道から。

松永 正式なものじゃないですよ。

出口 正式じゃないんですか。

松永 ない。

出口 函館時代ですか。

松永 そう。

出口 福田さんですか、来たの。

松永 名前、忘れまして。もうずっと……。

出口 いや、県調べてもそういう調査は依頼してないと言うんですけど。

松永 正式なものじゃないと思う。

出口 正式じゃないんですか。

松永 と、思いますよ。どういう、ああいうところは昔だから、どういう金をこうやっ
たか、それは分かりません。

出口 お金はもらったんですか。

松永 もらいました。

出口 ああ、そうですか。いくらですか。調査費。それは報告書は出したんですか。

松永 いや、分かりません。それも20年前か30年前ですよ。あ、20年か。

出口 函館時代ですよ、先生が。函館の山でやったんですか。

松永 いや、大学でやったんです、みんな。

出口 だって先生、函館在住じゃなかったですか、その時は。

松永 そうです。

出口 北大に行ってるんですか？

松永 え？

出口 北大でやったんですか。

松永 北大のとき。

出口 函館のね。水産学部の。

松永 ええ、水産学部。

出口 これ、何か報告書みたいなのないんですか、結果の。

松永 報告書は。

出口 どこ探しても北海道もね。

松永 いやいや、ないと思いますよ。

出口 ない？

松永 ええ。部長になればどっからでも…？…とかは持って来れるでしょう、当時は。

出口 いや、そんな、緩くないですよ。じゃあ、金額的には先生はいくらもらったんですか。

松永 だから、それは。まあ、？帳尻要るからね。金もらってますから、現金。だから、そこがはっきり覚えてませんわね。

出口 これは、だから EM のほうでもこれは違うんじゃないかと。道庁も、これは先生に委託はしてないと。

松永 正式にはたぶんそうだと思います。

出口 正式にやらないで非公式ですか。先生のほうには残ってないんですか。

松永 残ってません。もうそんなもん、全部引っ越しましたので。

出口 どういうふうにやったんですかね。

松永 どういうふうにやった？

出口 実験を。

松永 これ、書いたとおりですよ。

出口 いや、特に何も書いてないです。

松永 いや、書いてあるんだよ、見ると。好気性、嫌気性でやったって言って。で、？
ハツパ…？…？道具使って。

出口 それ、かけたんですか。

松永 かけたと思いますよ、おそらく。

出口 液を。

松永 そこまではね、記憶してないですよ。

出口 分からない。先生、もう一つそれから。もうちょっとあれなんで。今日は。四日市で先生が言う EM を入れれば河川が汚れるというのは、どこの川を指摘されてるんですかね。

松永 えーと、四日市高校の。

出口 ん？

松永 四日市高校のすぐ横を流れている四万十川、いやいや、十四川というのがある。

出口 十四川ですか。

松永 十四川。それから、どっかでやってますよ、一般には。

出口 アガセ川とか。

松永 そうそう、そうそう。いや、そこは知りません。

出口 アガセ川もそうですか。

松永 ええ。いや、そこは見たことがないから知りません。

出口 十四川は先生が実際に見たんですか。

松永 僕らの高校の、それから四日市大学のすぐ。

出口 近くだから。

松永 近くだから。

出口 どんなふうに汚れるんですか、先生。

松永 汚れてる。水が、われわれの時はこんなだったですよ、ドーンと流れて。それが水がもうほとんどなくて。

出口 EMをまいたら？

松永 いや、まいたかな。どこ、そこで？

出口 EMをまいたら川が汚れるっていうのは先生、具体的にどこの川を言ってるんですかね。

松永 どこ？ 十四川ですよ。

出口 それはEMをまいて川が汚れたんですか。

松永 汚れたかって前から汚れてるんですよ。

出口 (笑)。ああ、そうそう。これにね、EMを入れたら川が汚れるって先生は指摘されてるんだけど、どこの川のことを言ってるのかなと。

松永 汚れるって、常識じゃないですか。いや、酸素がないところに酸素を減らす物質を、有機物入れるんですもの。

出口 うん。

松永 それはもう科学者の話じゃないですよ、そんな。それはおかしい。

出口 じゃあ、実際にそれは、でも、現実は見えてないんですよね、じゃあ。

松永 現実は見ましたよ、だから。

出口 十四川というのは。

松永 見たかどうか、それ、まいたら、まいた後かどうか、そこまでは分かりません。

けど、十四川は見ましたよ、それはもちろん。

出口 十四川は見てても、まいてへドロが。

松永 前からへドロ臭いんですから、まいたから臭いなんて、そんなもん、分かりません。

出口 それは分からないですよ。

松永 分からん。

出口 それからね、アガセ川は。

松永 アガセ川は知りません。

出口 知らないんですか。あそこ、いろいろやっているんですよ、アガセ川を。具体的に地元の市議会議員とかね、公明党の議員とか何かがやって、臭いも消えてうんぬんというのは。

松永 理論的なことが何かということがないと、僕はそれを言ってるんですよ。

出口 うん。

松永 今の小保方さんの問題もそうじゃないですか。彼女、ネイチャーへ出したから？ 大切な情報を。けど、出さないと科学じゃないし、科学者じゃないわけでしょう？

出口 たしかにね。先生の場合はそういうネイチャーにね。

松永 いやいや、誰でもそうじゃないですか、今は。ただ、僕はそこを言っているんですよ。だから、根本的なところは何も触れずにおかしいじゃないかと言って。

出口 たしかにね、理論上どうなのかと、科学者であればね。

松永 そうですよ。

出口 ただ、机上の空論というものもあるわけだね。現実には臭いが消えて。

松永 いや、それで。いや、違うんです。…？…で全てに万能薬であったらネイチャーなんかほっとかないですよ。出したらすぐ掲載してくれますよ。違いますか？

出口 いや、そんなことはないと思いますよ。

松永 いや、万能薬と言っているんですもの。

出口 いやいや、万能たって、それは。

松永 いやいや、放射能も消えるって言うんだから。

出口 いや、それは万能たって先生、利用を、マルチユースっていうことですよ。万能というよりは。

松永 いや、効くと言ってるんですよ。

出口 いや、それは花壇にも効くしトイレの臭いにも効くし。

松永 そんなもん。なんでも得やったらね、そんなネイチャーはすぐ掲載してくれますよ。

出口 いやいや、ネイチャーはそんな。先生、知ってる。

松永 だから、掲載してくれるまで議論しましょうと、そうだったから、それが科学者の筋道ですよ。

出口 でも、EMは技術ですかね。技術というか、現実の問題をどう解決するかという。

松永 ただ、自分が何かということちゃんと論文に出さないよ。

出口 まあ、だから、それももちろんいろいろ論文も出てるけども。

松永 出てますか？ ちゃんとしたところへ。

出口 ええ、出てますよ。いや、そういうネイチャーとか何とかというのじゃなくて論文は出てる。

松永 そんなのは。

出口 論文じゃないですか。

松永 そんなの、審査もないところへ出してもしかあないですから。

出口 審査を通ったって、あんな小保方さんみたいなインキチな論文だってあるじゃないですか。

松永 あれはバックがおったからでしょう。ノーベル賞クラスが。ノーベル賞クラスがいなかったら通んない、そんなもん。あの人の名前で通ったんですよ。

出口 あのファンさんという韓国のあれも同じ事態でしたよね。あの時、ネイチャーは今後不正を防止するために、いわゆる共著者の役割を全部停止させるというふうに決めたんですよ。でも、今回はそれはなかったんですよ。

そうですか、分かりました、先生。じゃあ、ちょっとこっちもまた調べてね。ああ、それからね。

松永 いや、僕は非常にね、理由、朝日新聞に出した時に三重県で。

出口 ええ、ええ。四日市のね。

松永 それで、…？…つうんで、行ったんですよ。

出口 ん？ ん？

松永 EM菌の販売しとる人かな、2人ぐらい来て、それで、僕は時間取って会ったの

に、その後、彼らは何やったかと言うと、朝日新聞の名古屋、出掛けて、記事が間違ってるから掲載、出せと。

出口 訂正を。

松永 訂正を。こんなんね、正常な人間がやることじゃないですよ。そう思いませんか？

出口 いやあ、それはあれじゃないですか、記事に書かれた側が納得しない件については、それはやっぱり指摘してもいいんじゃないでしょうかね。それに新聞社が答えなきやいけない。

松永 いや、そうじゃない。これ、駄目ですよ。金が出とるんだから、四日市市から。じゃあ、その使い道がどうかと、まともかどうか。それはもう新聞記者の役目じゃないかと。

出口 それはそうです、もちろんそのとおりです。

松永 そうでしょう？

出口 ええ、そのとおりです。

松永 だから、間違ってるって、間違ってる根拠が何かということをちゃんと科学的に示さないで。それもしないで一方的に言って、で、電話、かかってきたんですよ、また。だから、言ったんですよ。会う必要ないって。そんなの人間のやることじゃないと。まともな人間じゃないと思うって言って。まともじゃない、そんなの。僕は科学者ですよ。科学者なら科学的に相手しないと。

出口 いや、もちろんそうですけどね。それで、僕なんかもこう調べて、これはどうなのかという。でも、現実に先生でもう北海道の件については、具体的な資料をやっぱりお見せしなければいけませんね、これだけ書くには。

松永 なんで、そんなの必要ありますか？

出口 だって公に EM は効果がないってね、効果がなかったと。

松永 僕もね、あっちで転勤してるんですよ、もう。？ああいうのをやってから、四日市大学行って。そんな資料、全部放ってしまいましたよ、そんなもんは。違いますか？

出口 先生、これは記事ね、青森で見つけたんですけど。

松永 それは知りませんわ、僕は。

出口 これ、フルボ酸。

松永 じゃあ、それ自由に使えますよね。

出口 このフルボ酸鉄とね、これ、磯焼け対策で藻類が増えてあわび、4倍できたと。

たぶん先生の。

松永 じゃあ、それ、使ったんでしょう。

出口 きつとね。

松永 そうだよ。

出口 そのアイデアで。

松永 そうだよ。

出口 それと EM の団子と混ぜてやってるんです。

松永 EM 関係あるの？ だから、僕の名前はしょっちゅうこういう形で使ってますよ、あっちこっちで。

出口 先生の。

松永 化粧品でも使っている。

出口 フルボ酸鉄と EM を混ぜてってのはどうですか、これ。

松永 そんなの何の関係もないですよ。

出口 何の関係もないですか。

松永 何の関係もないですよ。EM が磯焼けとどう関係しているんですか。講演で彼はそんなことを言ったんですよ。磯焼けも EM で治りますって…？…でしょう。もう30年も研究やってるのに何やっとなだって。だから、ああ、この人はおかしいなど。科学者じゃないと思いましたよ。

ガソリンに20%病気になるって、その情報は何かと言わないと。素人が聞いたとしても言わないとおかしいですよ。理論はこういうことですよ。それ言うも何もないんだから。おかしいと思いませんか、これは。こんな記事を書かれたら僕はやっぱりまた怖いから。

出口 僕が書いたものは先生、また送ります。けっこう、もともと僕は産経新聞の記者をやってて事件記者を長くやってたものですから、だから、基本的には事実を調べてというのは原則にしているのです。

すみません、先生。じゃあ、これをまたもう一度ちょっと整理して。今日はもう先生、あれなものですから、できたら夜ゆつくり時間取れればと思ったんですけど。

松永 あの。もうあんまり EM の人と会いたくない。いや、そうでしょう？ そんなことを時間を取って、時間をね、わざわざ取って。

出口 でも先生、やっぱり EM の批判をね、堂々と公にされるのであれば、その指摘、質問、疑問に対しては答える責任がありますよ、それは。説明責任というのが。

松永 いや、してます。しとったら埒明かんでしょう？ 科学じゃないんだから、相手は。

出口 まあ、だから。

松永 宗教ですもん。

出口 うん、埒明くか明かないかは別にしてもね。

松永 帰らないんですもの。

出口 帰らない？

松永 いくら説明しても。だから、こんなのどうしようもないなと思って。そうしたら年1回ぐらいにしたらどうかと。もう、それしか方法ないもの。それで帰った。

出口 でも先生、ただね、こう書かれてあって、北海道庁は松永先生にそういう調査を依頼したことはない。

松永 ないと。記事にそんなデータは残ってないと。

出口 残ってないというふうに。

松永 いや、それは事実。

出口 だって、これ、じゃあ、間違いじゃないですか。先生が、効果がなかったというのは。

松永 でも、某部長は分かっていただけのことで。

出口 某部長って福田さんじゃないんですか。

松永 名前忘れた。

出口 2人が来たんでしょう？

松永 いや、1人。

出口 1人で来たんですか。

松永 忘れたわ。

出口 もし資料を探して、あったら見せてくれませんか？

松永 だからね、全部放ったんですよ。転勤、転勤みたいなもんだから。

出口 研究室でされたんですか。

松永 ?研究室でもちろん。

出口 院生も含めて？

松永 どうやったかな、もう忘れた。学生やったか。

出口 本日はすみません、どうも、お忙しいところ、申し訳ないです。

じゃあ、先生、私、北海道の出身なんですよ、実は。先生は四日市ですよ。すみません、どうも。忙しいところ。体調は大丈夫ですか。

松永 ちょっとね、ふらついたのでね。

出口 ふらつくの？

松永 うん。

出口 あ、そうですか。血圧高いんですか。

松永 いやいや、そうじゃない。日によって違うんですよ。

出口 ああ、そうですか。

松永 今日は？朝から調子悪かったもので、だから、ちょっと遅くなってね。

出口 歩いたほうがいいでしょう？ なるべく。歩いたほうが。

松永 今度、足が痛いんです。

出口 ちょっと太り過ぎですよ。

松永 そうですか。だから、今減量してるんですけどね。

出口 どうぞ大事に。

松永 これ、書き方、…？…なんですか。

出口 え？

松永 どんななんですか。このEMを機にまた書くんですか。

出口 EMを機に何ですか。

松永 EMをまた書くんですか、何かに。

出口 いや、ずっと調べてるんです、今。

松永 あ、調べてる。

出口 ええ、この背景を含めてね。昨日は、だから青森県へ行ってきて、ちょっとこれを巡る事実関係が錯綜してるので。EMを批判する側もけっこうエキセントリックというかね、あの……。

松永 けっこうね、根本。出口さんは文系ですか、理系ですか。

出口 僕は文系です。経済学部ですから。でも、建築、新聞記者時代はね、渡り歩いたのはどっちかというところ、そういう世界も長かったもんですから。

松永 結局、論文というのは絶対必要なことだから、こっからスタートするんですね。

出口 そうですね、ええ。

松永 だから、これがない限りもう議論をしても始まらない。だから、論評しようがないという。僕が現職だったら、こんなの一切何も触れませんよ、アホらしくて。いや、論文ないんですもん。

出口 いや、論文ありますよ、先生。先生が言うところのネイチャーとかサイエンスとかというレベルをおっしゃってるんですよ、先生の場合の。

松永 そこまで。あれは。

出口 先生はだって論文。

松永 インパクトファクターは20もありますから、そこまで行きません。でも、3とか4ぐらいのインデスファクターは、それぐらいのところに出てないと、国際誌で。それは議論にならないでしょう？ 日本の審査ないところはいっぱいあるよ、そんなもん。そんなところで論文って出して、そんなの価値ありますか？ 審査ないところいっぱいありますよ。ほとんどノー審査の。で、論文にしましたって、そんなの誰が認めますか？ 違いますか？ 論文あると言われると、じゃあ、どの論文が。インパクトファクターがあるんですかと。それを聞いてください。

出口 分かりました、確認してきます。

松永 インパクトファクターがないのはそんな論文じゃないんだ。つまり、引用されてないということですよ。

出口 分かりました。すみません、どうも、忙しいところ。

松永 だから、僕は基本はそこなんですから。そこからスタートしているんですから。

出口 はい。そうですね。この冒頭もそうでしたね。

松永 いらんこと書いたかも分かんけど。ただ、論評もしようがないと。

出口 だから、枯葉うんぬんというのはちょっと何か信ぴょう性に欠けるんですよ、先生の全体のあの論文の構成の中でね。

松永 そういうことをやったということだけのことですよ。

出口 だから、道が認めてないから。そういうのは頼んでないって言ってるしね。それはちょっとどうかなという。あそこも何かあまり具体的に書かれてないじゃない。

松永 そんなの、こんなことを掘り下げたらその人に迷惑がかかるじゃないですか。

出口 いやいや、そうじゃなくて。

松永 辞めてるでしょう？

出口 辞めてるにしても公に道庁の依頼でやったというのであれば、それはきちっとやっぱり証拠を示さなければいけませんよね。でなければ、先生は思いつきかEMを批判するためにその話を持ってきたというふうだね。論文はそうだけど、その一角が崩れると全体の信ぴょう性がなくなるじゃないですか。

松永 ただね、そこまで。

出口 そこまで思って読んでも人はいないと思いますけどね。

松永 そんな人はいないよ。

出口 (笑) そうですね。

松永 僕はネイチャーに出したんですよ。

出口 そうですね。

松永 それと、そんな、あれと比べられたら？たまらん。

出口 先生、函館に戻られたというのはやっぱり北海道がいいんですか。

松永 …？…。

出口 四日市より北海道がいいですか。

松永 いいか悪いかは分かんないけど、とりあえず。

出口 北海道のほうがいいというか、四日市よりも北海道がいいですかね。どうですか、先生。僕はここの金沢工大の前は東京農工大学の大学院の技術経営の、MOT の特別招聘教授をやってたんですよ。

松永 ああ。ずっと前ですか。

出口 5年ぐらい前ですね。3年ぐらいですか。だから、月に2コマ、4コマぐらい。で、リスクマネジメントなんですよ、専門はね。リスクマネジメントというのは、メディアからダメージを受けた時にどのようにダメージコントロールするかというのが僕の専門なんですね。

松永 東京農工大って僕らの時代はスイ先生でしたね。

出口 ああ、そうですね。コマツ先生はご存じじゃないですか。コマツユウ先生は。(笑) 先生はもうメジャーで。

松永 …？…？何かあればね。

出口 僕も2年前から栃木の日光に3000坪の山を買って森作りをやってるんです。

松永 ああ、そうなんですか。

出口 間伐して、笹を刈ったり間伐材で階段作ったりね。今はコアジサイがもう満開で

すね。

松永 ああ。

出口 たしかに、山の手入れをするというのと、やっぱり溪流の石が山の上ですからすごい勢いで流れるんですよね。それでね、雨量によって川が変わるんですよ。それで森の縁が浸食されるんですよね。毎週行ってるんです、山に。もう2年間。北海道の僕は根室高校なんだから根室の。

松永 あ、そうですか。

出口 ええ、ドングリをね。コナラ。生まれは夕張ですけどね、炭鉱町で。うちは親父がリンゴ屋だったものですから。

松永 僕もかなり、7年ぐらい北大の…?…根室のカジワラさんというのが。

出口 ああ、そうですか。

松永 でも、もう今は帰らんって言ってる。

出口 (笑) 同級生は北大、今はドイツ文学でやってる?ヤマザワっていうのがいますけどね。

松永 ドイツ文学。

出口 ええ。北大の北キャンパスができる時は、僕はあそこで講演したんですよ。副学長も見えてましたけどね。

松永 そうなんですか。

出口 ええ。すみません、どうも、お忙しいところ。

松永 いえいえ。

出口 どうぞ先生、お身体大事に。

松永 はい。ありがとうございます。

出口 また来たらまた連絡させて、今度ゆっくりまたお話聞かせてください。

松永 はい。

出口 すみません、どうも。車待たせてるものですから、何か雨が降るみたいなので。すみません、どうも、わざわざ。失礼します。

以上